

研修成果報告書

~岡山県美作市上山~

～はじめに～

私は今回の国内研修制度を利用して、集落再生に大きな成果をあげている岡山県美作市の上山という地域に訪問した。同じ現代福祉学部の卒業生であり、地域協力隊として活動した後、現在も上山地区で幅広く活動している水柿大地さんと行動を共にすることで様々な体験をすることができ、地域づくりの楽しさや難しさというものを間近で感じることができた。

～上山集楽とは～

岡山市内から車で約一時間の場所にある上山地区はかつて 8300 枚(約 100 ヘクタール)の棚田が広がっていた。しかし、高齢化や担い手の不足によって棚田の維持が困難になり荒廃が進んでしまったため、美しい景観が損なわれてしまうという状況に陥っていた。2007 年からは NPO 法人英田上山棚田団、2010 年からは地域おこし協力隊の活躍により、見事棚田の再生に成功した。その後も古民家リノベーションや農業体験の実施など、ワクワクするような事業が多く行われており、限界集落再生の代表的なモデルにもなっている。



楽しいコト、人の集まるところということで、上山ではあえて“集落”ではなく“集楽”としている。

○モビリティプロジェクト

「上山集楽みんなのモビリティプロジェクト」の一環である試乗会とプロジェクト説明会に参加させていただいた。このプロジェクトは全国の企業や大学から EV (電気自動車)を集め、それらの乗り物が坂道や山道の多い上山でどの程度対応していくことが出来るのかを考えていこうとするものである。

試乗会では上山に住んでいる方や、他の地域から来ていただいた方たちに実際に EV に乗ってもらい、率直な感想などを聞くヒアリング調査を担当させてもらった。事前に担当する機種のアピールポイントを企業の方にお聞きして、そのポイントに関して重点的に聞き出せるようにした。実際にヒアリングしてみると、アピールポイントについて良いという意見があれば、一方でそれが裏目に出てしまっていると感じられる意見もあった。やはりこういう住民の生の声は、良い意見でもそうでない意見でも事業をより良くするうえで欠かせないものだと思った。

そのあとに開かれた説明会で、①ヒアリング調査をすることで住民がどのようなことを

生活のなかで感じているのか、どういったことを求めているのか知る。②それをもとにNPOや地域おこし協力隊が住民のためにできることは何かを提案する。③実際に住民と共に事業を進めていく。といった話があり、そういった仕組みが住民一体となった地域づくりには大切なのだと勉強になった。

また、説明会では今後のモビリティ事業についてのお話も聞いた。過疎や高齢化によって生まれる問題（交通の不便、高齢者の免許返納による自信喪失、農作業の困難など）にモビリティを導入することによって、通院や通学、買い物が便利になったり、高齢者でも安心して運転できるようになったり、農業が効率的にできるようになったりと、いくつになっても住民が生き生きと地域で過ごせるようになるのだ。

しかしその一方で、電気自動車が普及すると困る人たちも出てくる。地域のガソリンスタンドはガソリンだけでは儲からなくなってしまいうため、存続させるには電気自動車にも対応できるようにするなど経営スタイルを変えていかなくてはならなくなる。たまたま寄ったガソリンスタンドでこの話を聞いて、モビリティの導入に肯定的なイメージしかなかった私はみんなが快く賛成できるような事業をしていくというのはとても難しいことなのだと考えさせられた。



○上山住民の方との交流

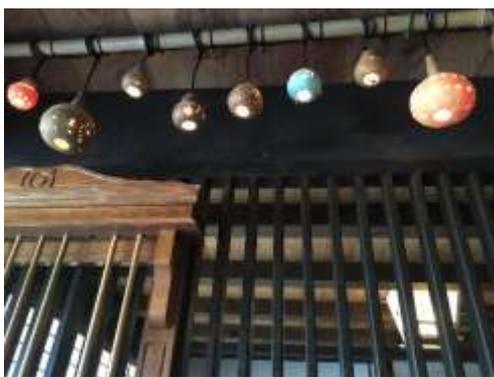
この日は、上山住民の丸山さん宅でお昼をごちそうになった。ここのお宅には水柿さんを始め、上山の方が泊まりに来ることもよくあるそうで、住民同士のつながりの深さを感じた。

小林さんというお宅では、棚田ゴルフというものをやらせてもらった。冬の間水の引かれていない棚田を遊べるスポットとして利用するのは面白いなと思った。さらに手作りの甘酒もごちそうになった。こういった地域住民との交流というのは集落で暮らす魅力の一つだなと思った。

○いちょう庵訪問

いちょう庵は水柿さんがオーナーを務める、古民家を改装して作ったカフェで、サロン（地域住民の交流の場）としても使われている。中には囲炉裏や住民の手作りのランプなどがあり、昔ながらで温かみのある空間だなと感じた。

今回訪問した際は休業中であったが、オープン時には地域住民やほかの地域から来た人も和気あいあいと楽しめるような空間となっているに違いないと思った。



○木の間伐作業

今回、3人で分担して一本の木を切らせてもらった。間伐と呼ばれるのだが、地域を災害から守ったり、良質な木を栽培するためには、木同士の間隔をあけ、陽の光があたりやすくなるように定期的に木を伐採する必要があるそうだ。10年後20年後のことを考えてこういう作業をしていると思うと、感慨深いものがあった。

○地域おこし協力隊の活動報告会への参加

ここでは、美作市内のそれぞれの地域で活動してきた6名の協力隊の方々の報告を聞くことが出来た。それぞれ、自分の得意とする分野であったり、鹿や茶畑など担当した地域の特色を活かした活動を行っていて、固定のやり方にとらわれない多様な地域づくりがなされていた。

～研修を通して～

上に挙げた以外にも、ヤギの世話であったり、強風で壊れかけていたトタン屋根の修理など、普段生活してはめったにできない経験をたくさんさせていただいた。地域で働くということは、ヤギの世話などの小さな仕事からモビリティプロジェクトのような大きな仕事まで幅広くこなさなければならないのだなと実感した。

この研修中水柿さんに同行していると、車で集落内を移動している際出会った住民全員

研修成果報告書～岡山県美作市上山～

に声を掛けていて、住民の方もそれに対し笑顔で楽しそうに話をしてくださる場面が印象的だった。いわゆる“ヨソモノ”として上山に来た水柿さんがいかに地域に深く関わっているかが伝わってきた。

上山集楽は、どこへいってもおもしろく素敵な大人たちがいる、そんな場所であった。電気工事士やキャスター、薬剤師など様々な経歴をもつ人々が上山へ移り住み、地域をより良いものにしようと日々アイデアを交換したり議論したりしている。こういった“ヨソモノ”のアイデア・活かせる地域資源・地域住民の協力が掛け合わされることによって魅力ある地域づくりが可能になるのだと思う。お会いした方はみな、真剣に地域の活性化について自分なりの考えを持っていて大変刺激を受けた。また、そういった人たちと関わる中で、自分をアピールすることの大切さも教わった。周りの大人に圧倒されてばかりいるのではなく、次に会った時に覚えていてもらえるくらい自分のことを知ってもらうのは、社会に出ても同じく大切なことだ。

今回の研修は、地域との関わり方を学び今後の進路選択や学習に関して視野を広げることが出来ただけでなく、自分が人として成長するきっかけにもなり、とても内容の濃い充実した4日間であった。